

# 学力向上推進研究の概要

## 1 はじめに

本校は、平成30年度から2年間にわたり、埼玉県教育委員会より学力向上研究校に指定され、次に示す研究を進める委嘱を受けた。そして、取組の成果は、次年度の前記調査で検証し、効果のあった取組を県内に普及するとのことであった。

(1) 埼玉県学力・学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用し、学校における学力向上のPDCAサイクルの確立に向けた実践的研究を目指すこと。

- ① 埼玉県学力・学習状況調査の結果の活用  
児童生徒一人一人の学力や学習の状況を把握し、学習指導の改善・充実を図る。
- ② 全国学力・学習状況調査の問題と結果の活用  
問題を解くことや児童生徒の誤答を分析することを通して、学習指導の改善・充実を図る。
- ③ コバトンのびのびシートを活用  
児童生徒一人一人の学力や学習の状況を多面的に把握し、より効果的な指導方法を見だし、教職員で共有し、学習指導の改善・充実を図る。

(2) 中学校においては、加配教員が小学校（兼務校3校：三輪野江小学校・栄小学校・旭小学校）において算数を指導するなどの連携を図ること。

また、吉川市では、教育大綱の「志」教育で、「学力」、「体力」、そして、「非認知能力」を高める授業を進めていくことが掲げられ、新学習指導要領に基づく教育活動を行っており、吉川市の教育の発展のために、埼玉県教育委員会の指定とあわせて研究委嘱を受け、様々な取組を行ってきた。そして、この度その研究の一端をここにまとめた。

## 2 研究主題

「学力の向上と学習習慣の確立」

～主体的学びを目指して、深い見方・考え方を育成する～

## 3 研修課題設定の理由（県学調の結果分析より）

昨年度4月に実施した埼玉県学力・学習状況調査の結果について分析してみたところ、本校の生徒の実態として以下のことがわかってきた。

学力レベルは、全学年ともに国語、数学はともに県平均。英語は、県平均を上回っていた。学力の伸びをみてみると、2、3年ともに数学に課題があった。

1年学力レベルは 国語も数学も県平均



2年学力レベルは 国語も数学も県平均 しかし英語は県平均超え！

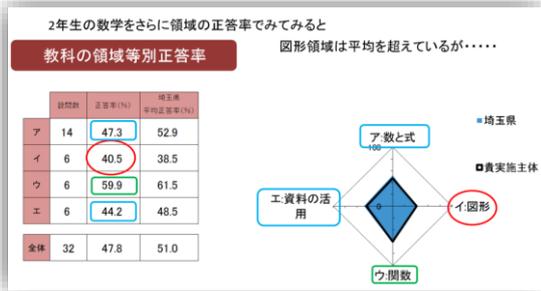


3年学力レベルは 国語も英語も県平均超え！ しかし数学は……



平成30年度4月12日の埼玉県学力学習状況調査の結果は……

	中学1年		中学2年			中学3年		
	国語	数学	国語	数学	英語	国語	数学	英語
県平均	55.2	58.1	55.6	51.0	65.4	61.7	59.1	58.5
市平均	54.9	57.4	55.2	48.3	66.1	62.7	59.9	56.8
東中学校	57.1	58.7	55.9	47.8	67.8	63.9	56.4	59.5
県平均との差	+1.9	+0.6	+0.3	-3.2	+2.4	+2.2	-2.7	+1



(イ) 児童生徒質問紙

H30結果

学年	学校	学習方略								非認知能力
		柔軟的	プランニング	作業	認知的	努力調整	自律性	社会性	共感力	
1年	学校	4.0	3.3	3.4	3.3	2.9	3.6	3.9	2.9	
	市町	4.0	3.3	3.5	3.3	2.9	3.7	3.9	3.0	
	埼玉県	4.1	3.5	3.6	3.6	3.0	3.9	4.0	3.1	

1年生の学習方略及び非認知能力については、すべての項目で、県の平均を下回っている。

H30結果

学年	学校	学習方略								非認知能力
		柔軟的	プランニング	作業	認知的	努力調整	自律性	社会性	共感力	
2年	学校	4.0	3.4	3.5	3.4	2.9	3.6	3.7	3.7	
	市町	3.9	3.3	3.4	3.5	2.9	3.6	3.6	3.7	
	埼玉県	4.0	3.4	3.4	3.5	2.9	3.6	3.7	3.7	

2年生の昨年度の学習方略について  
ほぼ県と同等だが  
プランニング方略が県よりよく、  
作業方略に課題がありそうである。

H30結果

学年	学校	学習方略								非認知能力
		柔軟的	プランニング	作業	認知的	努力調整	自律性	社会性	共感力	
3年	学校	3.9	3.5	3.4	3.5	2.9	3.7	3.6	3.9	
	市町	3.8	3.4	3.4	3.5	2.9	3.6	3.6	3.7	
	埼玉県	3.9	3.4	3.4	3.6	2.9	3.7	3.6	3.8	

3年生の昨年度の学習方略もほぼ県と同じである。  
しかし、柔軟的方略と非認知能力の自制心が県を上回り  
作業方略に課題がありそうである。

2年生の質問紙より作業方略の質問項目をみてみると

(2) あなたの普段の勉強のやり方について、ア～ネのそれぞれについて、もっとも当てはまるものを①から④の中から1つだけ選んでください。

① 勉強していて大切なところは、言わなくてもノートにまとめる  
② よく出てはまる ③ 少し出てはまる ④ どちらともいえない ⑤ あまり出てはまらない ⑥ 全く出てはまらない

	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
埼玉県	32.0	32.0	18.1	15.1	5.7				0.0	0.0
熊谷市教育委員会	32.7	30.3	16.7	11.4	9.8				0.2	0.0
貴校	24.5	33.3	19.5	11.3					0.0	0.0

ASPI VALUE

	1	2	3	4	5
埼玉県	32.0	32.0	18.1	12.1	5.7
熊谷市教育委員会	32.7	30.3	16.7	11.4	8.8
貴校	24.5	33.3	19.5	11.3	11.3

課題のある2年生の数学を中心にさらに詳しくみると次のようであった。

- ①「数と式」・「関数」・「資料の整理」の基礎、基本の知識や技能が、県に比べて中間層で伸び悩んでいる。
- ②「図形」では、見方や考え方、記述式は県平均を上回っている。

①、②について昨年度の学習などを振り返ってみると、授業中ではアクティブ・ラーニングを意識した指導を実施し、自分の考えと友達の考えを比較検討した授業展開により、見方や考え方が伸びた半面、基礎・基本の定着のための演習の時間が十分にとれず、宿題などにより各自に復習をゆだねたことにあるのではないかと考えた。

また、質問紙では、数学の学力の伸びと予習・復習をすることには相関関係がみられた。学力上位層は十分であるが、中間層はこれが不十分であることがわかる。加えて、中1ギャップの問題があると考えられる。特に、小学校と中学校の学び方の違いに戸惑いを感じる生徒は多く、指導者の説明の早さやノートのまとめ方、授業展開のスピードや学習内容の量は、小学校と比較して差が大きい。さらに、南北10kmに及ぶ本校学区の広さにより、ほぼ全員が自転車通学者で、30分以上かけて通学することは、小学校と比較してもかなりの負担になっている。

次に学習方略についてみてみると、1年生は、すべての項目について県平均より下回っている。また、2年生はほぼ県平均と同様であるが、プランニング方略が県を上回り、作業方略が県を下回っている。また3年生も県とほぼ同等であるが、柔軟的方略と、非認知能力の自制心はよいものの、作業方略が下回っていることがわかった。

以上の分析結果などから、研修主題を「学力の向上と学習習慣の確立」とし、副題を「～主体的学びを目指して、深い見方・考え方を育成する～」として、研修を進めていくこと

とした。研究のスタート時は数学を中心とした研究であるが、学力向上を着実に推進するために、全教科及び全教育活動で研究を進めていくことにした。

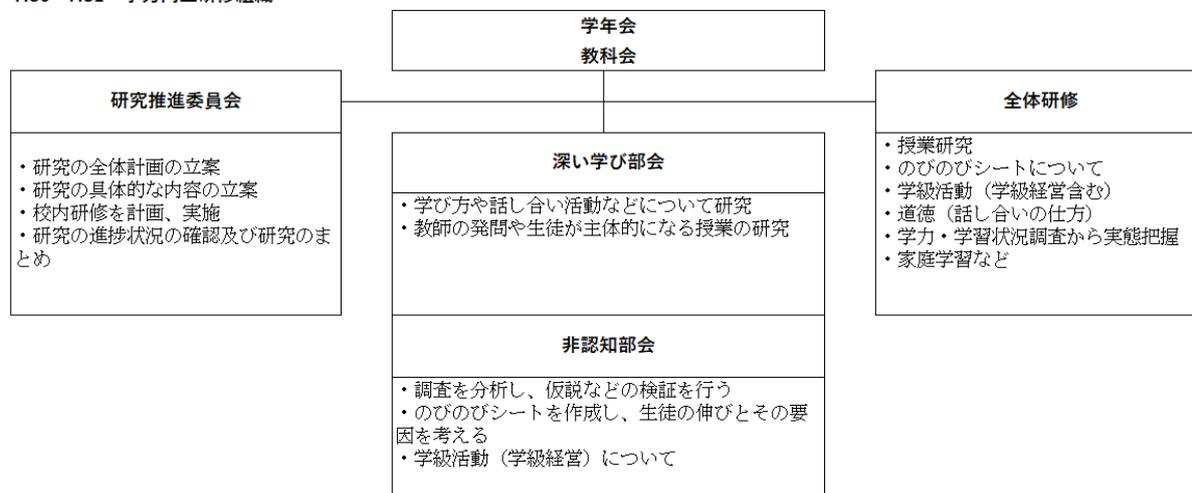
## 4 現状と課題を踏まえた仮説

本校の生徒の現状を踏まえた課題から、学力の向上を推進するために、以下のように(1)～(4)の仮説を立て、研究を進めた。

- (1) 学力の伸びがみられる教科や設問を精査し、授業を検証することから、学校として効果の高い指導法等を共有することで、学力を伸ばすことができるであろう。
- (2) 伸びが見られた生徒とそうでない生徒の1年間の学習状況や生活などを検証し、それぞれの長所や課題を見出すことが学力や学習方略と非認知能力の向上につながるであろう。(のびのびシートなどを活用)
- (3) 生徒に單元ごとのロードマップ(学習の進め方)を提示し、学習の見通しをもって取り組ませれば、学力を伸ばすことができるであろう。
- (4) 小学校の算数の学び方と数学の学び方の連携を図ることが学力向上につながるであろう。(中1ギャップの解消)

## 5 研究組織

H30・H31 学力向上研修組織



## 6 1年目の研究実践

(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善

① 本校生徒の学力などの状況を分析し、課題や研究の方向性を決めた

埼玉県義務教育課や東部教育事務所学力向上推進担当の先生方からのご指導の下、埼玉県学力学習調査や全国学力学習状況調査を「深い学び部会」・「非認知部会」で分析して、前述のように本校生徒の実態を把握し、その原因をさぐり、学校全体で進めていく具体的な研究方法について検討した。話し合いの内容から、研究仮説を設定し、具体的な研究実践について全職員で共有した。

② 中1ギャップなどを解消するための小中合同研修会の実施

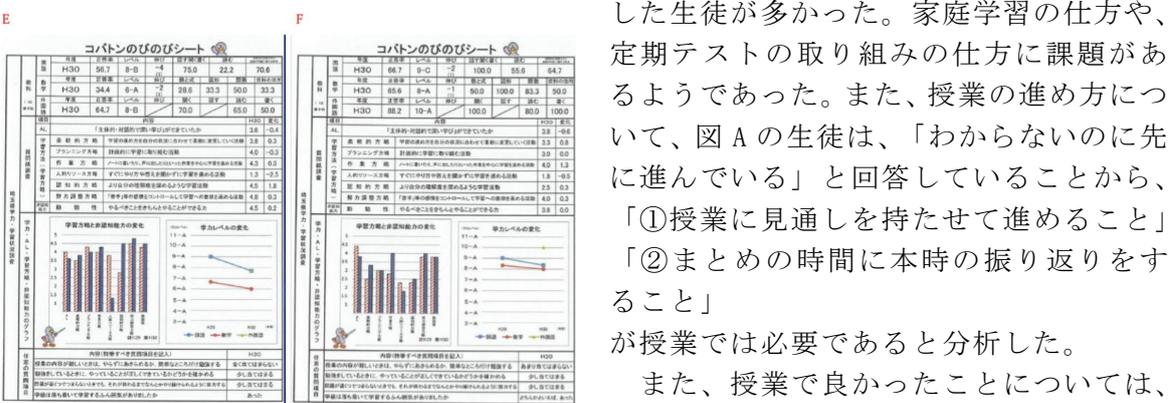
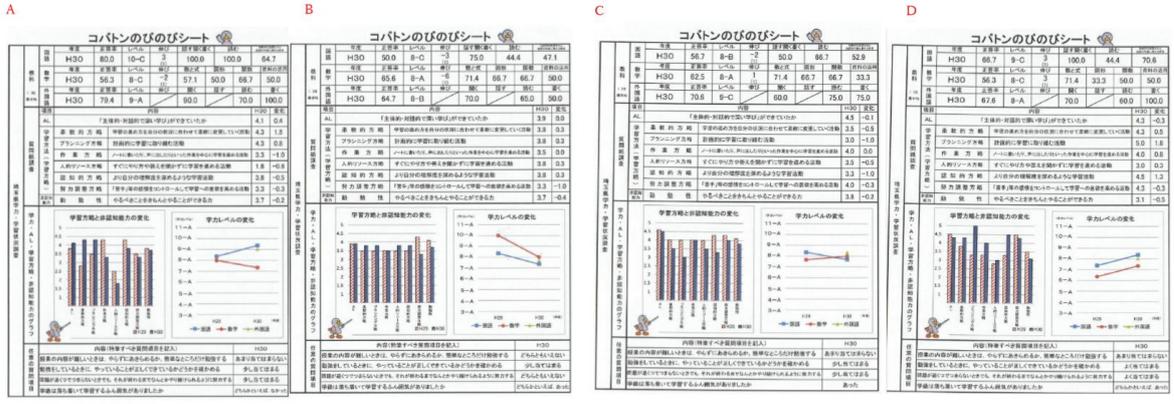
東中学校学校区の小学校3校と夏期休業中に合同研修会を実施し、2つの部会で、「主体的・対話的で深い学び」の授業について相互に意見を交換し、中学校の課題の現状を伝えるとともに、小学校の算数の授業などで、問題解決型の授業の流れ「つかむ→かんがえる→たしかめる→まとめる」について中学校の授業でも進めることが大切であることを共有した。

③H29年度の1年生の数学の授業分析（コバトンのびのびシートを活用して）

2年生数学の授業の面談（丸秘 取扱注意）

1年生の時の授業について質問します	A	B	C	D	E	F
氏名	A	B	C	D	E	F
①授業は、わかりやすかったですか？	前回はわかりやすかった	前回はわかりやすかったが、内容は難しかった	ICTがわかりやすかった	どんな式を作ったを自分で考えた	前回はわかりやすかったが、正負の数で内容が難しくなった	プリントでわかりやすかった
具体的にどんな点・・・	ICT	前朝	前朝	考える時間がある	わからないところを教えてくれた	
②授業に興味を持っていましたか	持ってた	ICTに興味	持ってた	持ってた	はい	はい
③授業で、よかったと思う点	前に履けて前朝	自己評価シートで振り返りをしたこと	アクティブラーニングで、教えあいをした	自分で解いたところ	ICT	みんなの反応を見て先生が雑談を交えて気持ちを切り替えてくれた
④授業で、改善したほうが良い点	わからないのに先に進む	寝ている人がいたので、問題を解かせるほうが良い	ない	ない	ない	応用問題など苦手なところの問題をやりたい
⑤あなたのノートの取り方は	プリントに記入		大事なところはメモ	前朝を聞いてメモ	プリントに記入	プリントにアンダーライン
⑥予習・復習について	予習×復習○	家庭教師がわかりにくい	ワークの解説を読んだ	できた	予習×復習少し	やらない
⑦テスト前の学習について	対面プリント		対面プリント	できた	あまりやってない	対面プリント
⑧小学校5、6年生の算数の授業について	わからないことはなかった	Z会予習復習を交えてやっていた	だいたい良かった	簡単でよかった	記憶にない	簡単でおもしろくなかった

H30年1月に、コバトンのびのびシートを活用し、数学に課題があった生徒数名に個別面談を実施し、数学の授業や家庭学習などについて聞き取り調査を行い、伸び悩みの原因を探った。その結果、授業については「内容が分かる」と回答



した生徒が多かった。家庭学習の仕方や、定期テストの取り組みの仕方に課題があるようであった。また、授業の進め方について、図Aの生徒は、「わからないのに先に進んでいる」と回答していることから、「①授業に見通しを持たせて進めること」「②まとめの時間に本時の振り返りをする」が授業では必要であると分析した。

また、授業で良かったことについては、ICTの活用や、教師の説明、教え合い学習

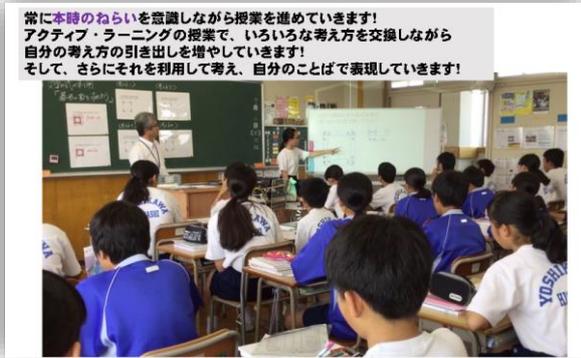
をあげており、引き続き「わかりやすい授業の工夫」や、教師の熱意が大切であることを再確認した。

④数学の授業改善（教師の指導のスキルアップ）

数学科で複数回研究授業を行い、「主体的・対話的で深い学び」の授業はどうあるべきかをテーマに話し合いを実施した。その中で、毎時の授業で「見通しを持たせること」、「どんな発問が有効か考えること」、「4人グループで教え合うこと」、「まとめで適用問題を解かせること」が大切であることを共有し、授業計画に盛り込んでいくために、各自授業計画ノートを作成、活用するなどして指導のスキルアップを図った。

数学部会研究授業

- ①平成30年 7月11日 1年4組「文字式」 東部教育事務所学力推進担当 木村優二 先生
- ②平成30年11月 1日 2年2組「平行と合同」 埼玉大学教育学部准教授 松寄昭雄 先生
- ③平成30年11月20日 1年1組「平面図形」 東部教育事務所学力推進担当 木村優二 先生
- ④平成31年 2月25日 三輪野江小学校6年1組「中学校体験入学コース：分数で表せない数」  
東部教育事務所学力推進担当 木村優二 先生



⑤専科加配による3校訪問で小中の連携を図る

毎週火曜日に数学専科加配の教員が市内3小学校（三輪野江小・栄小・旭小）を順番に訪問し、授業サポートや指導、研究授業などを行ってきた。また、計算の苦手な児童が多い場合は、「算数教室」を実施し、計算力の向上を図った。訪問により、小学校と中学校の指導の仕方の違いが、中1ギャップのひとつの要因と考え、「問題解決型」の授業展開を小中で共有した。また、小学校において発問の仕方や授業展開について、意見を交換したり、「ICTの効果的な利用の仕方」や「授業の流れがわかる板書計画」や「ノートのとおり方」などを共有した。

**小中連携授業5年 7/2**  
 ◎小中連携事業で、古川東中の山中先生に算数の授業をしていただきました。



小学校では、考える時間を十分にとりながら、ていねいに指導しています。

- ①授業開始で本時のねらいを確認！
- ②課題の字んたことをふりかえらせながら
- ③まず、ひとりで考え
- ④もたちの考えとくあへながら
- ⑤1箇問のまなびをままとめます。
- ⑥まんだことをつかって、考えを深めます！

そして、中学校でも、○○でこの考え方を発展させていきます・・・と伝えます！



## 7 2年目の研究実践

2年目は、研究を大きく分類すると、以下の4つの領域で取組を実施した。

- (1) 授業の改善・・・教師が変わる→生徒が変わる
  - 主体的・対話的で深い学びの研究
  - その時間に何をできるようにしたいかを明確にする
  - 「見通し」を持たせて授業開始を心がける
  - 授業力向上2 WEEKSの実施でお互いの授業を評価する
  - 小中連携で小学校・中学校の学びを共有する
- (2) 信頼関係づくり・・・学級経営
  - 「2分間道徳」で話題の引き出しを増やしていく
  - 「あれから1週間作戦」で、生徒の心に寄り添っていく
  - 「3人目の声かけ」で担任の先生の思いを生徒に伝える
- (3) 学ぶ環境の改善
  - 生徒会主催の授業評価（RYHプロジェクト）で授業態度などの見直し
  - 学習の塔・課題学習の塔・課題テスト・コバトン問題で学ぶ意欲を高める
  - 自然に目に入ってくる「学力向上クイズ」で、意識を高める
- (4) 自分のことを家族とともに考える
  - コバトンのびのびシートで自分の伸びを確認する

### (1) 授業の改善について（数学科から全教科へ）

#### 教師が変わる→生徒が変わる

昨年度数学を中心に授業改善を行ってきた。学力の向上を推進するためには、当然すべての教科で「主体的・対話的で深い学び」を活用した授業を行っていく必要がある。そこで、若い教員が多いことから、指導のスキルアップが大切と考え、そのために年次研修だけでなく、ベテランの教員の授業も含めて、互いの授業を見学し合っ、相互評価する取組を実施している。具体的には、「授業力向上2 WEEKS～1コマ10分研修」として、期間を設け、1人7コマ以上の授業を参観している。また、参観者は評価シートに率直な感想や意見を記入し、返却している。授業評価することは、指導技

#### 授業力向上2 WEEK～1コマ10分研修～（案）

教務・研修主任

教員の使命で最も大切なことは、生徒の学力向上です。そして、その基礎は言うまでもなく授業です。その授業における指導力向上、個々の教員の授業力向上は、教育現場に課せられた終わることのない課題です。そこで、東中学校の教員の授業力をさらに高めるべく、以下のように提案します。

#### 研修のねらい

- 若手・ベテラン・教員の垣根を超えて、教員相互が授業を参観しあうことで、学校全体で授業力向上に取り組む風土を醸成する。
- 参観者が気づいた、その授業の良さや改善点を授業者にフィードバックすることで、本校全体の授業力を向上する。
- なかなか見ることができない先生の授業でも参観することができ、自分自身の授業改善に役立たせる。
- 授業参観の視点に学校研修課題の視点を取り込むことにより、学校研修課題に対する取り組みを強化する。

#### 具体的な取り組み内容

1. 期間 6月10日（月）～6月21日（金）
2. 研修方法
  - (1) 基本的に自分の空き時間を利用して参観する。ただし、1時間のすべてを見なくてもよいものとするが、1コマ10分以上は必ず見る。
  - (2) 参観者は、授業者に対して別紙参観用紙を記入し、教務に提出する。
  - (3) 教務は記録後、授業者に参観用紙を渡す。
  - (4) 授業者は、参観用紙を元に授業改善を図る。
3. 目標 令和元年度の目標は、1人で7コマ以上の授業を参観するものとする。

#### 授業参観シート

記入日 4 / 13 ( ) 校時 授業者 ( ) 先生 )

参観者 ( )

1 授業の振り返りチェック10 (全てのチェックが難しい場合は、記入できるポイントだけでOKです。)

No	チェックポイント	良い点=改善
1	授業の冒頭において、本時の課題（ねらい、めあて）を明確に示し（板書等）、学習の見通しをもたせている	③ 3 2 1
2	「日常の生活場面からの課題提示」「驚きや感動を与える導入」「既習事項との関連（習得した知識・技能の活用）に気づかせる」等により学習意欲を喚起している	④ 3 2 1
3	「追究したい、解決したい」という必要感をもてる学習課題を設定している	4 ② 2 1
4	主体的・問題解決的な学習活動を設定している	④ 3 2 1
5	自力解決の時間を保障し、児童生徒に自分の考えをもたせている（自分の考えがもてるように個別の指導・支援を行っている）	④ 3 2 1
6	言語活動の充実（話し合い、討論、講述、レポート作成等）を図っている	④ 3 2 1
7	主体的・対話的で深い学習を意図し、目的に応じたペア学習、グループ学習、協働学習等、児童生徒の主体的、協働的な学習形態を設定している（その目的や行い方を丁寧に指導している）	④ 3 2 1
8	児童生徒の思考を促す発問や理解を深める発問を工夫している	4 ③ 2 1
9	本時の目標（ねらい、めあて）に即した学習の振り返りを行っている（自分の学習で本時のねらいに即した学習のめあてを書かせたり、発表させたりしている）	④ 3 2 1
10	本時に身に付けさせるべき知識や技能等の習得状況の確認を行っている（適用問題等を行い、その帰りに学んだことはその時間の中で定着させている）	4 ③ 2 1

2 参観者感想記入欄（負担のない範囲で記入してください。）

授業のつらさとして、準備ロスがどのくらいか、いつも何分かけていたか。それから出た意見を元に、展開は授業の最後は振り返り、適用問題とし、とても良い授業だった。



(2) 信頼関係づくり・・・学級経営が大切（担任・教師と生徒との関わりを重視）

- 「2分間道徳」で話題の引き出しを増やしていく
- 「あれから1週間作戦」で、生徒の心に寄り添っていく
- 「3人目の声かけ」で担任の先生の思いを生徒に伝える

校長が4月に示す学校経営方針の柱として、「学級経営の充実」がある。具体的には、上記の3つの取組を全教員が共有する。

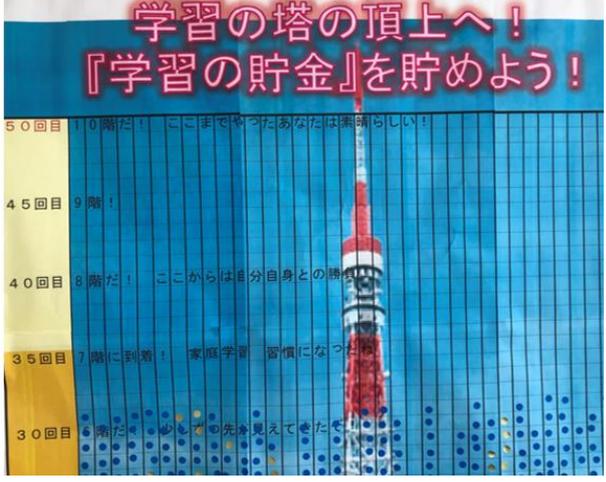
「2分間道徳」は、校長が抜粋した新聞の切り抜きなどの資料でタイムリーな話題で構成され、担任が朝の会や帰りの会で講話をする際に使用する。校長から不定期に示される資料は、特に若い教員にとっては、「今日は何を話そうか」と話題に困ったときに有効であり、学級経営を充実させている。

また、「あれから1週間作戦」は、良いことも悪いことも生徒を指導した1週間後（2週間後）に、その後の様子を確認、声かけをしていく取組で、担任と生徒、保護者との信頼関係を築いている。

さらに、「3人目の声かけ」は、第三者による支援である。具体的には、直接指導した教員ではなく、該当生徒に対して、第三者の教員から「〇〇先生、君のこと褒めてたよ」などと伝えている。自分が褒められているということを経験することにより、教員と生徒の信頼関係づくりに大いに寄与している。

(3) 学ぶ環境の改善

- 生徒会主催の授業評価（RYHプロジェクト）で 授業態度などの見直し
- 学習の塔・課題学習の塔・課題テスト・コバトン問題で学ぶ意欲を高める
- 学習に関する掲示物（階段・廊下等）の充実で学習に対する意識を高める



【生徒会による学習の取組】

**RYH (Raise Your Hands!)**

- ① 「手を挙げよう！」プロジェクトとして、クラス間で1週間の挙手回数を競いあい、1番のクラスを学期末に表彰している。
- ② 生徒会主催の授業評価  
毎時間、あいさつ・チャイム席・意欲・総合評価の4観点を教科担当教員と学級委員で行い、1番のクラスを学期末に表彰している。

【学習の塔と課題テスト（1年：青葉テスト・2年：みどりの森・3年：学習の塔）】

家庭学習などを充実させるための取組である。「学習の塔」と呼ばれる掲示物に、家庭学習提出回数を記録し、その高さを掲示している。達成感がある取組であり、多くの生徒が欠かさずに提出できるようになっている。また、課題テストを3教科で実施し、合格するまで問題練習を行っている。

【学習に関する掲示物】

廊下や階段などの普段目にする部分に、国語や英語などのクイズ形式の問題が貼られている。また、NIEの取組として、英会話に関する掲示物も充実している。

(4) 家族とともに考える学力向上

○コバトンのびのびシートで自分の伸びを確認する

**コバトンのびのびシート**

教科	科目	年度	正答率	レベル	伸び	話す聞く書く	読む	総合評価	
		国語	H31	70.0	10-B	4 (1)	80.0	66.7	68.8
数学 (11 級平均)	数学	年度	正答率	レベル	伸び	数と式	図形	関数	資料の活用
		H31	96.9	12-A	12 (4)	100.0	100.0	100.0	83.3
外国語	外国語	年度	正答率	レベル	伸び	聞く	話す	読む	書く
		H31	86.8	12-A	6 (4)	100.0		81.8	83.3

【年・組・氏名】 3年 組 番

その他の

科目	国語	数学	英語	読書	話術
80	100	85	20		

1学期期末テスト

科目	国語	社会	数学	理科	英語	5科計
94	96	88	98	95	466	

資料は、同一人物の右が2年生、左が3年生のコバトンのびのびシート

一昨年、特に数学の伸びに課題があった生徒を対象に面接を実施し、授業や学習状況の確認をして、授業改善を行った。

同時に、追跡調査をした結果、その生徒の伸びが著しく、学習カルテとしての活用が有効であると考えた。そこで、埼玉県学力学習状況調査だけでなく、全国学力学習状況調査や定期テストなどの結果を掲載し、昨年度の学習と比較して様々な角度から検証し、自分の学習効果のあった学び方を振り返らせる活動に使用できないか検討を始めている。

そして、この結果を、個人の励ましやアドバイスなどだけでなく、埼玉県学力学習状況調査の個人結果表とあわせて三者面談で有効活用できないか研究しているところである。

また、このデータをもとに、個々の変化を比較し、生徒の変化の要因を検証し、校内研修で共有し授業改善などに活かしている。

## 8 学力向上の取り組みを生き方指導に繋げる

本校では、数年前よりコミュニケーション能力を高める実践を授業や行事などで取り入れている。特に、国際交流による文化の異なる他国の方々とのふれあいは、将来の生き方指導につながると考える。これを成功させるためには、まさに、学力がどれだけ身についているか、特に「非認知能力」がどれだけ高められているかということが重要と考える。これまで、その実践として、オレゴン州レイクオスエゴ市の高校生との交流会（平成30年度7月）や吉川市出身のJICAの関係者と南米アルゼンチンとの交流授業（平成30年2月）を行ってきた。今年度も、12月19日（木）に、チリ在住の方とSkypeによるビデオ通話により、生中継で3年生との交流授業を計画している。ここでは、「なぜアルゼンチンやチリに行ったのか」など、直接の対話を通して、自分の生き方を考えることができることを期待している。



## 9 研究の成果と今後の課題

埼玉県学力学習状況調査生徒質問紙 本校現3年生の昨年と今年の結果の比較

質問番号	質問事項	選択肢				
		1	2	3	4	その他
(1)	あなたは、勉強する理由について、どのように考えていますか。ア～エのそれぞれについて、当てはまるものを①～⑤の中から1つずつ選んでください					
ア	勉強することが楽しい、好きだから					
選択肢	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない					
H30	埼玉県	7.8	29.8	39.9	22.5	0.0
	本校	6.9	21.4	42.1	29.6	0.0
H31	埼玉県	7.1	26.7	39.1	27.0	0.0
	本校	6.4	28.0	35.0	30.6	0.0

中3のはじめ県全体では、勉強するのは楽しい、好きが減り、きらいが増えている  
 中3のはじめ本校では、勉強するのは楽しい、好きが増え、きらいが減っている

埼玉県学力学習状況調査生徒質問紙 本校現3年生の昨年と今年の結果の比較

質問番号	質問事項	選択肢				
		1	2	3	4	5
(2)	あなたの普段の勉強のやり方について、ア～ネのそれぞれについて、もっとも当てはまるものを①～⑤の中から1つだけ選んでください					
セ	勉強していて大切だと思ったところは、言われなくてもノートにまとめる					
選択肢	1. よく当てはまる 2. 少し当てはまる 3. どちらともいえない 4. あまり当てはまらない 5. 全く当てはまらない					
H30	埼玉県	32.0	32.0	18.1	12.1	5.7
	本校	24.5	33.3	19.5	11.3	11.3
H31	埼玉県	32.2	32.8	17.7	11.6	5.5
	本校	31.8	24.8	22.9	12.1	8.3

### 3学年の学力を伸ばした生徒の割合

平成31年度埼玉県学力・学習状況調査(中学校3年生)			
学力分析データ(伸ばした児童生徒割合)学校別 [国語]			
学校名	学力を伸ばした児童生徒の割合(%)	学力が伸びなかった児童生徒の割合(%)	学力の伸び率(H31学力レベルとH30学力レベルの差の平均)
埼玉県	63.7	36.3	1.6
本校	64.7	35.3	1.5
平成31年度埼玉県学力・学習状況調査(中学校3年生)			
学力分析データ(伸ばした児童生徒割合)学校別 [数学]			
学校名	学力を伸ばした児童生徒の割合(%)	学力が伸びなかった児童生徒の割合(%)	学力の伸び率(H31学力レベルとH30学力レベルの差の平均)
埼玉県	72.2	27.8	2.1
本校	79.5	20.5	2.7

国語  
【平成29年度入学(現中学校3年生)】

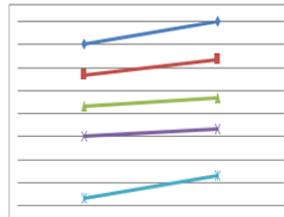
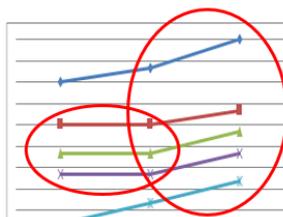
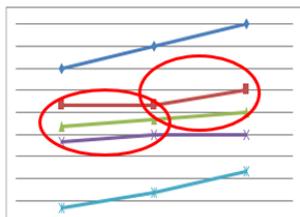
学年	中1	中2	中3
最上位の生徒が属するレベル	30	33	36
上位から25%に位置する生徒が属するレベル	25	25	27
中央に位置する生徒が属するレベル	22	23	24
上位から75%に位置する生徒が属するレベル	20	21	21
最下位の生徒が属するレベル	11	13	16

数学  
【平成29年度入学(現中学校3年生)】

学年	中1	中2	中3
最上位の生徒が属するレベル	30	32	36
上位から25%に位置する生徒が属するレベル	24	24	26
中央に位置する生徒が属するレベル	20	20	23
上位から75%に位置する生徒が属するレベル	17	17	20
最下位の生徒が属するレベル	10	13	16

英語  
【平成29年度入学(現中学校3年生)】

学年	中2	中3
最上位の生徒が属するレベル	33	36
上位から25%に位置する生徒が属するレベル	29	31
中央に位置する生徒が属するレベル	25	26
上位から75%に位置する生徒が属するレベル	21	22
最下位の生徒が属するレベル	13	16



毎年 中1 の中間層が国語、数学で伸びないのが本校の実態

中2 で国語、数学の中間層がグリーンと伸びました!!!

今年度の埼玉県学力・学習状況調査では、3年生の質問紙調査において、「あなたは勉強する理由について、どのように考えていますか。」という問いに対し、「勉強することが楽しい、好きだから」と回答した生徒(「どちらかと言えば、当てはまる。」と回答した生徒も含む)の割合は、県平均 26.7%に対して 1.3%高い 28%であった。

しかし、研究当初の同学年の生徒は同じ質問に対して、県平均 29.8%に対して 8.4%も低い 21.4%であった。このことにより、「勉強することが楽しい、好きだから」と考える生徒が大幅に増えていることが明らかとなった。

また、非認知能力の作業方略に関する質問項目として、「勉強していて大切だと思ったところは、言われなくてもノートにまとめる」という問いに対して「よく当てはまる」と回答した3年生は、昨年度 24.5%から今年度は 31.8%まで上昇し、「全くあてはまらない」と答えた生徒も 11.3%から 8.3%へとかなり改善されたことがわかる。

さらに、左表のとおり数学に関しては、学力を伸ばした3年生が 79.5%と県平均 72.2%を大きく上回っている。

また、学力を伸ばした生徒に関して、2年時の所属クラスに戻して分析したところ、あるクラスでは90%以上もの生徒が成績を伸ばしていたことが分かった。

本校の1年生の国語・数学の学力がなかなか伸びない。これは、全国的な傾向とも考えられるが、本校が毎年抱えている課題であった。

しかし、昨年度に様々な取組を実施した結果、表の

ように国語・数学の中間層の学力がかなり伸びた。

また、在学中の生徒の1年時の国語・算数の埼玉県学力学習状況調査の結果は、県平均と同等か、若干上回っていたが、入学後の1年間の学習によって、以下のような傾向が見られることが明らかとなった。

- ① 中間層の基礎、基本の知識や技能が、県平均に比べて伸び悩んでいる。
- ② 見方、考え方や記述式の問いに対しては県平均を上回っている。

さらに、作業方略に課題があることから、いわゆる中1ギャップと呼ばれる躓きとして、小学校と中学校の学び方の違いに戸惑いを感じる生徒、授業者の説明の早さやノートのまとめ方、授業展開のスピードや学習内容の量、さらには部活動や自転車通学（本校の学区は南北10kmにおよび、自転車で30分以上も通学に時間のかかる生徒もいる。）といったことにも戸惑いを感じている生徒がいると考えられる。

## ＜研究によって期待される成果＞

今年度最終的に次のような成果を期待している

(1) 令和2年度の埼玉県学力学習状況調査の結果から

- ① 学力を伸ばした生徒の割合をどの学年も80%以上にするを目標にする。  
(今年度3年生数学79.5%)
- ② 学習方略、非認知能力の数値を2, 3年は、0.2%伸ばす。1年生は県の平均より0.1%上回るようにすることを目標にする。
- ③ 家庭学習がほぼ毎日続く生徒が、90%以上にするを目標にする。
- ④ 作業方略（ノートに書いたり、声に出したりといった作業を中心に学習を進める）を県平均以上にするを目標にする。

(2) 学校評価アンケートから

- ① 「家庭学習を毎日続けるようになった」と回答した保護者の割合が90%以上にするを目標にする。
- ② 「我が子が我慢強くなった」と回答した保護者の割合が70%以上にするを目標にする。

## ＜今後の課題＞

2カ年にわたり研究を進めてきているが、まだ道半ばと感じる。今後も以下の課題を解決できるように地道に取り組んでいきたい。

- ① 1年生の数学で、様々な取り組みをしてきたが、学力がなかなか伸びていない原因を究明する必要がある。
- ② 学習習慣が身につかない生徒への指導について検討する必要がある。
- ③ 毎年多くの若手教員が入れ替わるため、指導力のスキルアップ体制を整える必要がある。
- ④ 非認知能力が県平均を越えてない項目が多いため、さらに原因を究明し、方策を考える必要がある